

第6回仙北市政策検証市民委員会 会議録

- 日時 平成24年7月19日(木) 13時35分～16時50分
- 会場 仙北市役所田沢湖庁舎 第1会議室
- 出席者 委員 牧田委員長 大和田副委員長 佐々木委員 堺委員 田口委員 草薨委員
佐藤委員 橋本委員 西村委員 藤村委員 10名
- 市 田邊副市長 倉橋総務部長 佐藤総務部次長兼企画政策課長 田中総務部次長
兼財政課長 運藤総務課長 門脇財政課課長補佐
高橋総合産業研究所長 大山所長補佐
太田観光商工部長 草薨観光課長 平岡商工課長 大山商工課課長補佐
- 事務局 企画政策課 戸澤参事 大澤政策推進係長 柏谷政策推進係主事 15名
- 欠席委員 なし

1. 開会

- 事務局 お疲れ様です。ただ今から第6回仙北市政策検証市民委員会を開会いたします。最初に資料の確認をさせていただきます。
(別添資料について説明)
それでは次第に従いまして始めさせていただきます。最初に委員長からあいさつをお願いします。
- 事務局

2. 委員長あいさつ

- 牧田委員長 前回初めて委員長という重責を担わせていただきまして不十分であったと思います。今回も多岐にわたる論議になるとと思いますがスムーズに話しを進めていけるように皆様のご協力をよろしくお願ひしたいと思っています。どうかよろしくお願ひします。
- 事務局 ありがとうございます。続きまして7月1日から新たに就任しました田邊副市長からあいさつをお願いします。

3. 副市長あいさつ

- 田邊副市長 皆様こんにちは。初めての方もいらっしゃるかもしれませんが、6月に農水省を退職して7月から仙北市にお世話になることになりました田邊浩之と申します。どうぞよろしくお願ひします。今回のマニフェストの検証、4年間で所得を10%増やしますということ、私はここに赴任する際に、特に、経験を活かして農業の所得を向上させてくれと言われていまして、いくつか自分なりの考えを持っているのですが、まずは今回の議論を糧にさせていただきながら皆様にも市民の皆様にもご提案出来ればと考えています。所得を上げるというのは短期的取り組みと長期的取り組みがありまして、短期的には手っ取り早くするには外国人観光客の誘致とか企業誘致という側面もあるでしょうし、長期的には伝統とか文化とか、それから人材育成に取り組んでいかなければいけませんし、それからエネルギーをどうしていくかも考えていかなければいけないことだろうと思っています。短期的な取り組みと長期的な取り組みはバランスがなかなか難しいですが、基本的に私はとりあえず節目となるのはあと1年半後の市長選挙になりますので、短期的にも成果を出さなければいけないのかもしれませんが、きちんと土台を、基礎を踏まえながらやっていきたいと思っています。また、マニフェストというのはよく国でもあるのですが施策を作ったら作りっぱなしというのが一番良くて、作ったものをどうこう検証して発展させていくか

が重要だと思っていますし、その際に一番重要になるのが外部の意見だと思っています。本日は忌憚のないご意見をいただきながら自分なりの今まで思っていることと混ぜ合わせながら考えていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。

事務局 それでは今日のテーマに沿いましてここに出席している職員を紹介します。総合産業研究所から高橋所長、大山所長補佐、観光商工部から太田部長、草薨観光課長、平岡商工課長、大山商工課課長補佐です。

それでは委員長から案件を進めていただきます。

4. 案件

牧田委員長 それでは早速順を追って討論に入ります。4年間で所得を10%以上増やしますという中で、アクションプランの5から始めます。事務局並びに関係部局から補足説明その他がありましたらお願いします。

大山所長補佐 それでは、政策2の「4年間で所得を10%以上増やします」のアクションプラン5総合産業研究所の新設について説明します。平成22年度の取り組み内容ですが、22年4月、仙北市内で生産される農林畜産水産物や特産品の生産が始まり、加工・商品化・流通・販売に至るまでの各家庭における生産者・技術者の支援を行なうために必要な調査研究活動及び支援活動を行なうことにより、農林畜産水産業・観光業及び商工業の活性化を図り、もって市民の所得向上に結び付けるための組織として総合産業研究所を設置しました。地場産物の加工及び商品開発チームというところで、麵恋こまち・真空パック米・ルパームジャム・じょうよ麺・仙北ピュア・雲然柿漬け・枝豆コロッケ等の7品目について取り組んでいます。22年10月ですが、東京都文京区本郷にアンテナショップ本郷店を開設しました。12月にも台東区浅草にアンテナショップ浅草店を開設、23年1月には秋葉原に秋葉原店を開設しています。出荷回数は68回、売上総額は133万円となっています。また、Eビジネスのシステム整備の検討と施行を実施しています。平成23年度ですが、地場産物の加工・商品開発支援としては田沢湖冷麺・比内鶏ラーメン・かくのだてバーガー・花豆菓子・野菜ペースト・カット野菜等の6品目について取り組んでいます。マッチング支援として学校給食会への食材提供ということで、冷凍かぼちゃ・加工じゃがいも・冷凍枝豆が食材提供されています。また、冷凍ほうれん草・アケビ・山の芋等の4件についても出ています。それと、市場にマッチした振興作物としての雪下キャベツ・雪下ニンジン・雫田かぶの雪下野菜の試験圃を23a設置しました。また、気候条件を活かした振興作物として大根・レタスその他高冷地野菜の試験圃として10a設置しました。加工を前提とした振興作物として花豆の試験圃を10a設置しています。また、ネットショップ秋田せんぼく本舗を開設し23年度は10品ですが57,872円の売り上げがありました。内部評価の結果は2、外部評価はCとなっています。以上です。

牧田委員長 今説明がありましたが、アクションプランの6にも8にも関係しています。似たようなことなので一緒にやっていきたいと思いますがどうでしょうか。

(一同了解)

補足の説明はありますか。

大山所長補佐 アクションプランの6、食育と地産地消運動の展開について、22年度の事業ですが、給食センターの状況把握として3地区センターの利用状況調査を実施しています。生産者サイドの組織化として供給体制の整備・提供管理を実施しています。また、地場産品の自給の必要性についても食の講座を開催して普及啓発を行ないました。また、学校等を対象とした食育講座も実施しています。平成23年度は、地産地消の一環として直売所連絡協議会と市内の食に携わる飲食業等・宿泊業・製造業との方々とマッチング商談会を2回開

催し、延べ150人の出席が得られています。食育活動を積極的に展開するために伝統料理や食文化を継承していく役割を担う組織として、食の伝道師仙北ばあばーずを設立しました。小学校や市民グループの調理実習や伝統料理の伝承を実施しています。また、食伝統や年中行事のレシピの作成に取りかかり、レシピは今年度8月8日に完成する予定です。食育推進活動としては食育の教室を教育施設で7回、市民団体で7回を実施しています。また、無添加いぶりがっこの漬物教室を1回開催しています。仙北市の食育推進会議は11月と2月の2回教育委員会の主催で開催しました。学校給食における地場産野菜の使用率ですが、22年で27.3%から23年は32.4%と5.1%向上しています。この会議は現在教育委員会が主体となっていますが24年8月からは総合産業研究所が主体となっていくことになっています。今後の課題としては学校給食等への地産地消の100%を目指した場合に、価格の対応や施設への説得、生産者の体制整備、一次加工の整備が必要になると思われます。以上です。

続きましてアクションプランの8、食品加工産業群の育成です。22年度は品質向上ブランド化を目指して都市消費者に魅力を与える商品セットを作成し、41の商品を選定しカタログとして秋田せんぼくセレクションを1千部作成しています。また、全国ふる里ふれあいショップ上板橋とれたて村への出店補助も実施しています。販売促進イベントで参加することで首都圏へPR販売を実施し、16回41日で売り上げが1580万円になっています。23年度は新ビジネス発展体制整備事業として自家製の野菜等の農産物加工販売投資経費に対しての補助を実施しています。4人の方々へ180万円交付しています。内容としては包装機、大根の千切り、食品の乾燥機等です。また、22年度同様に上板橋とれたて村での取り組みを実施しています。販売についてですが、雇用創造実現事業を活用しながら首都圏並びに県内へのPRを実施しました。首都圏は11回22日で売り上げが350万円程度、県内は10回12日で33万円程度です。今後の課題としては、農商公連携と6次産業に取り組むために一次産業産品が不足していることで、園芸作物の生産振興への支援が必要になっているということです。以上です。

牧田委員長

3項目について説明がありましたが、委員の皆さんの質問・意見がありましたらお願いします。共通して内部評価にて取り組みに着手しているが先行きが見えないものと評価しているが、これを評価されたのは少し前ではないかと思っています。その後先行きが見えるようなものが見つかったかどうか、検討されたどうか説明願います。他の方は何か質問等ありませんか。

堺委員

総合産業研究所と書かれているように所得を生む玉手箱という名前でデビューしています。これは門脇市政が10%所得を増やすという最大の目玉商品としてスタートしている。特別なかたちで臨時職員を入れて専門家を入れて、次々と色々なことを繰り返すことにより仙北市に様々な利点を与えるということの最優遇品目として行なわれた施策だと認識しています。今ここに来られている方に質問するのは非常に酷だと思いますが、平成22年度の一番スタートラインで、総合産業研究所の非常勤特別職及び一般職任期付職員として県立大学の教授等を採用して事業がスタートした訳です。色々な事業をとり混ぜて説明していただいたが、この方々がいた22年の事業に関してのみの感想をお願いします。

大山所長補佐

22年度ですが、首都圏での物販活動、地域産品を活用した商品開発に取り組んできています。アンテナショップの開設もしていますが、実際に商品として、麺恋こまち・真空パック米・ルパームジャム・じょうよ麺・仙北ピュア・雲然柿漬け等について実際に開発しています。現在のところあまり芳しくないという状況です。今後どうするかが重要な課題であり、このまま継続するのかそれとも・・・・

堺委員

そこまで言い訳をしなくてもいいが、実際に3つの品物に関しては完全に破綻している

とはっきり認識していいですよ。最初に行なわれた3つの商品は華々しくデビューした訳ですが、実際に商品の売上げが全然上がっていない、作られた製品がほとんど廃棄状態になっていると認識してよろしいのではないですか。

大山所長補佐 麺恋こまち・真空パック米・じょうよ麺に関してはそのとおりです。

堺委員 そうですね。資料にある平成22年度活動実績で過疎地域自立交付金事業の中で約1千万円が総務省補助で入っている、その中で行なわれたものが新商品の麺恋こまち・無洗米・じょうよ麺の3種類の商品を開発したということが正確なところですよ。その中で商品化されたもの以外に、じょうよ麺という製品化さえも出来ないで終わってしまった商品もある。その後に地域雇用創造実現事業構想提案書が平成22年3月から25年3月まで厚生労働省の補助として52,358千円入っている。これによって研究所にいる臨時雇用の職員を使っている。実際の事業費のほかにこういうものもある。それから、遠く離れても心は一つ仙北プロジェクト支援ということで農水省の補助で18,000千円を使って東京方面に3ヶ所のアンテナショップといわれるものを作った訳です。アンテナショップの現状はどうなっていますか。

高橋総合産業研究所所長 遠く離れても心は一つ仙北プロジェクトは市内のNPO団体が事業主体になっています。今、本郷の真弓商店会については少しかたちを変えて継続していると聞いています。秋葉原の商店会の日本百貨店についても継続はしていると聞いています。浅草の商店会については23年1月に開始されましたが2カ月程度で閉じているようでしたので継続していません。

堺委員 3つの商店会に対して18,000千円の事業をもって色々なことをやった訳ですが、私はアンテナショップの現物を見ています。非常に小さいスケールです。3つのアンテナショップの平成22年度の売上げはどれぐらいですか。

大山所長補佐 1,400千円です。

堺委員 3ヶ所まとめて1,400千円ということですね。せっかくこうしてやって、わざわざ私は自費で本郷まで行って来ましたがあきれた状態にびっくりして帰って来ましたが、これで本当にアンテナショップと言えるのかということに対しては非常に情けなく思いました。実は仙北市の中では私達商工会が関与しているもう2箇所のアンテナショップがあります。それも色々な商店や連合体で売上げがなかなか上がらないという実績があって、せっかく玉手箱としてこういう目玉事業がスタートしたので、さぞかし立派なものを販売しているのだろうと思って見に行くと、でも酒屋の片隅で小さいケースを置いてそこにちょっぴり商品を置いてあるというスペースで、こんなお金を使うような施設だったのかなと非常に残念に思って来たことがあります。私が言いたいのは、せっかく目玉商品としてこれだけの予算を投入されて、その他に活動費も投入され、最先端の優秀な職員を大量に配置して、それで仙北市の所得10%をリードしようという機関がこのザマで何をしたかったのかということに非常に怒っている訳です。商工会の特産品開発事業の私は委員長をやっていますので非常にバッティングする部分があるので、出来れば連携してやっていきたいということに対して、私達は非常に粘り強くやりまして桜のいぶりがっちは初年度にだいたい3,000本からスタートして2年目に6,000本、昨年度が15,000本、今年度は30,000本に増やすという、粘り強くやっているにも関わらず、これだけの金をかけて色々な商品を開発して1年もたないで全部廃番になっている、それに莫大な金をかけて廃番にしているという現状を考えると、何のためにこの総合産業研究所を作ったのかの意味が全然わからないというのが私の初年度に関しての感想です。2年目以降はこれから皆さん方が質問された時点でまた色々な問題点が出て来ると思うのですが、当初の立ち上げから始めて最初

の評価というのは最悪というか、向こうに行って大盤振る舞いをずいぶんしたでしょう。ただでものを食わせるのから何から、市民のお金だってあんなに大盤振る舞いしてただでものを配って良いのですかという、お金があれば何をやっても良いのですかという非常にひどいものを目の当たりにして見て来たので非常に腹立たしい期間だと思えます。

牧田委員長 他の方は今のやりとりも含めて疑問・質問ありましたらお願いします。

草薨委員 我々にその顔が見えないということ、何らかのかたちで、商工会とか観光協会も関連すると思えますが、その実態が見えないで最後にこういう質問をされるとこうこうだという言い訳で済ませるような今の体制では大変ではないかと思えます。この前から相乗効果ということをかなり言っていますので、全て税金を投入した場合は良いか悪いかをはっきり市民に公開する必要があるのではないかと思えます。

西村委員 この前の会議の時に、自分達に知恵がなかったり汗をかけない時は外部から高いコンサルタント料だろうが何だろうが雇って、能力のない人は授業料をかけなければダメだと話しました。これもたぶんそれで良いと思っています。ただ問題は、これだけの税金と言われる国からも色々な補助をもらってスタートしました、これからだと思っていますとか1ヶ所止めましたというその計画に対して、今度副市長になった人は農林水産省だったりするから大変だろうと思うが、計画通りにいっていないとすればいつ計画通りにいくのか、例えば今進行中だがこの先展望があるのかないのか、ないとすれば、そのとおり計画通りいかないと補助金を戻せということになる、経済効果がなければ、費用対効果が出て来ない、さっぱり補助金をやっても何も実績が、今の段階でどういう報告をしているのか、報告は誰も係官がいなくなってから10年後に報告すればいいものなのか、そういうものではないと思う。そうすればどういう報告書を出してどういうコメントをもらっているのですか。この先はどんなことでしっかりやるつもりなのか。それから、これだけ実績が上がっていないとすれば修正も含めて何か別の手を考えているのかいないのか、それもまた誰かから聞かないと答えが出ないのかどうか、それとも今のスタッフで何とか答えが出るのですか、展望は開けそうですか。

佐々木委員 実は私の身内が文京区本郷3丁目にて、家族がアンテナショップに行ったことがあって、あれは何という話し、あきれて帰って来たという実績があります。東京には色々な方々の身内や親戚等がいますので、それを納得させるような例えば田沢湖会とか西木会とか色々なものがある訳で、そういう方々に協力してもらい、あるいはJAでも東京にアンテナショップを数ヶ所持っています。商工会もやっています。確かに自分たちでやろうとする意欲はわかるのですが、例えば合わせてやるとかより良い知恵を出し合っただけコストをかけないであるものを利用しようとしなくて、国からの補助金や市からもかなりの金額が入っていて税金です。国からのものであれば良いということではない訳ですから、そういうことからすればもう完全に怒りを通り越すというかそういう感じになっています。研究所に置かれた方々も大変だと思えますが、西村委員が言うように自分達に知恵がなければ外部からという話しですが、自分達もなければ外部も金取りにかかっているという感じでやらなければならないのではないかと思えます。23年度ですが、首都圏での物販活動等に取り組んだということで、実際に商品開発に取り組む者の主体性を促すことが加工・販売まで繋げることが出来る作物の生産振興が必要なことがわかったと、どういうようにわかったのか、それから24年度は商品開発支援及び生産作物振興への重点を置くということ、具体的にはどういうことをやろうとしたのかということ、その結果はどうだったのかをお答えいただきたいと思えます。

牧田委員長 西村委員と佐々木委員から出ました質問・疑問に対して回答願えますか。

高橋総合産業
研究所所長 的確な答弁になっているか不安ですので、もし違う主旨の発言になっていたらお知らせください。最初に国等から補助金を得て行なった事業ですが3点あげさせていただいてました。3点のうち地域雇用創造実現事業については事業主体が市ではありません。JA・商工会・観光協会・仙北東森林組合等の団体が構成する協議会があり、この事業の趣旨は地域の雇用情勢・経済状況を踏まえたうえで失業されている方を雇用して、実践的な訓練をしていく中で自立なり次の就職に結び付けていくかたちで事業を展開しているということで、この中では3つの事業を行なっています。4名のスタッフが雇用されて、首都圏等における販路の拡大、商品のブラッシュアップとその生産振興体制を築いていくことと、もう一つはEビジネスの展開ということで3つの項目にチャレンジしていただいています。その事務局的な役割を研究所が行なっているということです。それから、遠く離れても心は一つ仙北プロジェクトは、農水省の補助金で市内のNPO団体が受け皿となって事業を展開しており、この事業の趣旨は物販販売もそうですがあくまでも首都圏の商店会や商店街との交流に基づいた物販販売をしていくということで、都市の消費者との信頼関係を築いた新たな販路開拓をしていくということで行なわれています。これについては事業主体がNPO団体で行なっています。費用対効果の部分でお話しをされる訳ですが、その部分は非常に……

佐々木委員 少しずれているので、私が聞いたのは、要するに各事業は厚生労働省や農水省の事業があり税金を使ってやっていますが、協議会を作ってその中で進めているということですが、ここに書いてある以上は研究所が事務局になっているからということですね。もう一つは私が言いたいのは、23年がこうだと、全部ダメだということではなくて、どれか1つか2つは良いものはあったでしょうということを書いてもらえればそれだけで良いです。

高橋総合産業
研究所所長 23年度の職員体制が一変しました。22年度は大・産・学・官とJAの職員で構成されていまして。23年度は1人任期付き職員が残ってあとは一般職の職員になってしまいました。その中で22年度から事業を引き継いだ時に、23年度に残された部分については引き継いでしっかりやっていきたいと思いますということで来ましたが、堺委員もお話したように、市内の色々なところで商品開発や販路開拓に先駆的な取り組みをしている人がわかりました。研究所としてはそういう先駆的な取り組みをされている人達を一生懸命支援していこうというように方針を変えています。そのためにはマッチング交流会等で情報交換をしてお互いがどういう情報を欲しいのかということも汲んで、そういう情報の場を作ってマッチングしていく機会を増やしていくことと、その中で加工・販売・業者から出された意見と生産者から出された意見を踏まえて、今はとにかく加工するための生産原料がないという声が多いので、実際に加工したい人が欲しいものを生産していく体制を整えましょうということで、去年は雪下キャベツと雪下ニンジンだけの試験栽培でしたが今年は6品目で面積にして約1町歩ぐらいの試験圃を設置しています。その作物として白菜・雪下キャベツ・トマト・イチゴ・カリフラワー・ダリアを試験栽培等に行なっています。

佐々木委員 端的に、長所となる一品だけ、良いところだけ、23年度の流れはわかりました。今取り組んで結果がでているもの、皆さんに報告できるものはありませんかということです。

高橋総合産業
研究所所長 生産振興体制では今話したとおりです。これはJAと一緒に取り組んでいます。もう一つは異業種連携のところでは加工を目的とした作物の作付けということで花豆をやっています。花豆の生産者が去年は8人で1田歩でしたが今年は19人で3田歩に拡大しています。加工する市内の菓子業者も1業者から4業者に増えて来ているということで、マッチング交流会を通して異業種連携は増えて来っています。それから白岩産の粘り腰という品種の小麦ですが、これは今まで生産出荷だけで終わっていたものを今度は製粉にして市内の菓子業者、パン・麺業者等に提供することによって試作に取り組んでいただいて、それ

が商品化されて店で販売されて来ているということで、異業種のネットワークは少しずつ繋がりが見えて来ているとの感触は持っています。

牧田委員長

今は一つのテーマだけに集中して時間がかかっているのももう少し整理しませんか。新商品をどう開発していくかということ、もう一つは、それが必ずしも今までは十分でないということだったが、今の説明でもやはり1年経てば色々な経験を基にして取り組みがなされていると、しかも他の色々な力を結集しながら研究所の皆さんがそういうかたちを作っているということでは確認出来ると思うのですが、もう一つは、その販路の問題がこれからどう展開されていくのかというあたりが、生産と同じように商品開発と同じように市内の様々な分野の人達とどういような会話になってどうしようとしているのかも含めて展望があれば、先行きの見えるようなものが何かないのかなと思っていますがいかがでしょうか。そのへんに関して。

堺委員

わざと22年度しか言わなかったのですが、23年度に対しても色々言い訳をしていますので、23年度は何をやったのかということ、私が言いたかったのは22年度に特別職を3人用意して素晴らしいスタートを切ってこれだけの予算を使ってやった、そうしたら23年度になったらそのうちの2人がいなくなってしまった、24年度になったら誰もいなくなった、この事業自体が全部破綻しているのではないですかということを行っている訳なので、今は一般職員しかいないから商品開発はあきらめましたと、他の一緒にいる4人のメンバー、厚生労働省の補助で雇用している方々が同じ部屋の中において、その方々が製品開発を担当していると言い訳を始めている訳で、花豆の話もされましたが、昨年度作付けたたった1田歩の花豆は全部消化しましたか。まだ残っていますよね。お菓子にされたものはまだ残っている、それから小麦の話もされましたが、小麦はじょうよ麵を作る時に白岩をお願いして、小麦を作ってくださいとお願いしたら製品化されなかったという、作った人が大変になったので別のものに仕方なくせざるを得なくなったという、現実としてはそういうものがある訳です。反省の心が全然足りなくて、来年度以降の総合産業研究所は本当に所得を生む玉手箱としてこのまま残っていく可能性があるのかどうなのかということからしても非常に不明確です。22年と23年度で特別職が全部いなくなって一般職員しかいない、この方々も最近来た人ですよ。何も事情を知らない人達が一般職員と同じようにただ異動させられてこの場所に来て、前が何も出来なくて困った、どうしたらいいだろうと、製品開発は自分達が出来ないからバイトの連中にやらせたことにしておくと、そしてバイトの連中がやっていますと、この前も花豆を角館の街中でバイトの方々が一生懸命まだあると言って売っていました。また同じことをやるのではないですか小麦と一緒に。色々な商品を開発してはダメでしょう。角館バーガー販売中とあるがどこで販売しているのですか。

高橋総合産業
研究所長
堺委員

ルーシーカンパニーさんです。

名前は最初せんぼくバーガーだったですよ、開発をこちらでやった時は。角館バーガーはルーシーカンパニーさんだったのですが、せんぼくバーガーという名前で米粉のパンと枝豆のハンバーガーと両方セットした商品を総合産業研究所で発売しようとして失敗したという認識が私にはありますが、なぜ他の人が開発した角館バーガーがこの実績の中に入っているのかがよくわからない。これはルーシーカンパニーさんが開発して売り上げを上げている民間商品ですよ。その前に枝豆を使ったハンバーガーを作ったでしょう。

高橋総合産業
研究所長

せんぼくバーガーですが、鞘むきの枝豆、冷凍枝豆を一次加工してそれをバーガーにしましょうということで商品開発が進んでいました。ところが鞘むき枝豆の一次加工の部分で引っかかってしまい出来なかったのです。そのため取りかかれなかったということです。商品は計画で中断してしまったということです。

- 堺委員 試作品は一杯作ったでしょう。
- 高橋総合産業
研究所長
堺委員 試作品は仙北市産の枝豆でないものが使われたと思います。
それをなぜお金をかけて開発したのに実績に書かないで、全然関係のない角館バーガーの名前を出して成功しているかのようなことはわからない。
- 高橋総合産業
研究所長 角館バーガーについては、白岩産の小麦粉を使って皆さん商品開発しませんかと市内の業者に呼びかけた結果、ルーシーカンパニーさんが手を上げて取り組んで自社の商品を開発しているということです。
- 牧田委員長 他の方、今の点で質問等ありませんか。今のやりとりはこれ以上は・・・・・・・・
- 田邊副市長 自分なりに考えを申し上げますと、今までチャレンジした結果がこれだけ示されているということで、これは共通認識になると思いますが、あまりにも手を広げ過ぎているのかなと、どれかに集中したほうが良いと自分は思います。コストというのは、新しいものを作るのに非常にお金がかかります。自動車であれば新車開発に1台1千億円かかります。それでも失敗する場合があります。トヨタもF1で1年で1千億円かかるらしいですが優勝出来ないまま撤退してしまった、新商品というのは本当にコストがかかると思います。そのコストをかけ過ぎて開発しすぎてしまったのかなと、もしかしたらマーケティングが上手くいなくて、売れなかったら次のものを考えてしまうというような流れになっていると思うのですが、ここの流れの中で光明が見える商品というのは、柿漬けというのは登録商標までいって生産化もしています。それから比内鶏ラーメンも鶏ガラのおいしさをイメージすれば結構いけるのではないかと、冷麺も最近人気ですし、それから花豆も特色のある商品ということで商品化も完成しているということなので、こういったものを重点的に、今後新商品の開発が難しいということであれば、もっと宣伝させていってマーケティングなんですね、秋田県のアンテナショップがあって、私が昔農業法人時代に熊本県の取り組みですが、銀座にアンテナショップがあって若手の農家が2個1万円のポンカンで100個、それから鶏肉1羽1万円を100個用意したところ即日完売して、1日で2百万円の売り上げが上がる、そういった集中して高価値を付けてマーケティングすれば大ヒットまでとはいかないと思いますがスマッシュヒットぐらいは何とか1個か2個生み出せば次のステップに繋がるのではないかという感じがしました。もう一つはアンテナショップと販売促進イベント参加というのは、例えば秋田県のアンテナショップに一元化して集中的にやっていったり、Eビジネスでいくと知名度のある楽天さんとか、今中国ですごく伸びているバイドゥーというサイトとも結びつけば外国への販路にも結び付くのかなということが考えられますので、そういったことを組み合わせながら今後総合産業研究所と一緒に農業の所得向上をもっと考えていきたいと考えています。
- 牧田委員長 まだまだ出尽くしてはいないのですが、これまでの説明等で考えられたそれぞれの委員の評価をお願いします。それぞれのアクションプランの評価について佐藤委員からお願いします。
- 佐藤委員 今日は少し遅れてしまったので最初を聞けなかったところがあるので、評価まで難しいところがあるのですが、総合産業研究所はかなり期待されていて商品開発まで手掛けるということなのですごく難しいところがあると思いますので、当初の予定どおりにいない部分があると思いますが、やはり人材の確保ということが一番難しいのではないかと思います。それが上手くいっていない部分がありますのでアクションプラン5については評価としては2になります。
アクションプラン6は学校給食や保育所等の地場農産物利用拡大ということなので、こ

それは実際に拡大が図れているところだと思いますので評価は3です。

アクションプラン8はまとめきれていないので後回しをお願いします。

田口委員

それぞれ評価2・4・2とします。今さっき説明を聞いた時には色々なことをやられているということでしたので、色々なことをやっているのだなと、結構高い評価だなとの印象で聞いていたのですが、堺委員から実態としてはどうだという話があって、最初の説明を聞いた話と実態の話とのギャップが大きくて、結局市役所の説明を聞いただけでは今現在の実態がどうなっているのかということがそれだけではわからない、堺委員が話されたことが全部かというたとぶん全部という訳でもない、こうなってくると評価するための材料を全部私達が手元にしていない格好になりますので、そこらへんはあるのですが、あえて付けるとすれば2・4・2のかたちにさせていただきたいと思います。まさに玉手箱というのは宝物が入っているということだったが、浦島太郎の話では開けてみたら白い煙が出て来たような、ろくでもないものだったという、堺委員が箱を開けてくれたという感じはあるのですが、この件に限らず役所から説明される内容というのは自分達がこのようなことをやりましたということばかりで、実際の評価がどうだったという実態のところを十分説明していただけていないという印象があります。

堺委員

私は非常に厳しい評価しか出せないで、今副市長から一生懸命フォローしていただきました。でもあくまでも22年度と23年度に対する評価なので今のフォローでは点数は上がりません。22年度と23年度にどういうことをやったということを、せっかく来られた副市長が、このような適当な評価でごまかさないでしっかりとした評価で総合産業研究所を建て直すということをしていただきたいと思います。私は資料請求した時に具体的な数字も入れてくださいとお願いしたのです。これは数字を入れたら皆さん全部0点になると思います。どれを作ってどういうものを販売とかテストケースでもいいからやったという数字が悲惨ですよ。大変なことをやっているのだなと思います。アンテナショップはショップではないですよ、自分で見て来てください。恥ずかしくてとてもいけないような感じです。そういう意味で私は、でも現役の人に責任はないので評価は1・3・1とします。

佐々木委員

アクションプラン5は、総合産業研究所を立ち上げて目玉としてやろうという門脇市長の意気は買いますが、実績は惨憺たる状況であり本当は評価2にしたいところですが1.5とします。6は食育の関係ですが、旧町村で食育をやっていてかなりばらつきがあったのですが、協議会を作っているということで、実際はJAとも関係性が深いのもう少し上手くやればと思います。評価は3です。8は食品加工群の育成ですが、4年間で所得を10%増やしますということなので、当たり前であれば半分経過しているので出来れば5%以上の所得が上がっていなければならない訳ですが、ほとんど全滅の感じになっていますので、そういうことからすれば残念ながら非常に問題があり、かなり難しいということはおわかりですが、先程来からの説明を聞けば数打てばどれか一つ当たるといようなことをやっているように思いますが、かなり金をかけてそれがこけるよりは、数を打ってどれか一つでも当たれば良いなというシングルヒットでもいいやという感じが見え隠れする訳ですが、秋田県とJAのアンテナショップがありますし上手くかみ合わせながらやっていかなければ費用対効果の点からいけばコストの削減になると思います。評価は1です。

大和田副委員長

5の総合産業研究所の新設ということでは大変期待をして、失敗づくしだったかもしれないが色々なことに挑戦して2年間で痛い経験を重ねて、それで24年度以降に活かすということでは、何より新設して動き始めたことは評価したいと思います。でも商品開発やマーケティング業務等を行なう、実はマーケティングをやってちゃんと売れなかったら商品は商品にならない訳ですので、商品が商品として売れるところまでやるという覚悟をしていただくこの2年間の痛い経験だったのではないかと思います。そういう意味で本当に

期待して評価は2です。それから6の食育は着手出来たことはとても期待していますので評価は3です。8の食品加工群は、総合産業研究所の色々な取り組みの全てに言えることですが、作れば良い、やってみたいからやってみるのではなく、どうやって作ったものを売るのか、ヒットさせるのかという戦略、本当にマーケティングをきちんとやって取りかかるというのを24年度以降はするべきだろうと思います。色々な市民の先進例はもちろん取り上げながらですが、その中で仙北市からこれを打ち出すぞという、覚悟や戦略を持って臨むというリーダーシップを総合産業研究所がとってほしい、そういう意味では一緒に売って歩く、売って評価も聞いて歩く、汗を流して一緒に農家さんと歩く、加工業者と一緒に歩くというようなことも含めて是非検討してほしいという期待を込めて評価2とします。

牧田委員長

5については評価2です。やはり話しを聞いていて先行きが見えないです。もう2年経ったからきっちり総括をして次に何をどう打ち出していくのかということが出て来ないと、真っ黒なままに4年間経ってしまいそうな感じがして不安です。やろうとしていることはわかります。そのへんの自己分析を含めてやっていただきたい。6の食育の件では、皆さんと同じような意見で評価は3とします。取り組みが始まっているということの評価です。8の食品加工群も全く同じなのですが、民間や個人でも結構色々な商品になり色々なものを作っているんですね。マーケティングの問題は、色々な人が首都圏、親戚とか町内会だとか東京の商店会とか色々ありますよね、それだけではなくて、それぞれの仕事場で現場で東京に出たり仙台に出たり盛岡に出たりして、色々な努力をして、そういう意味では資源があるはずなんです。それを汲みつぶして方針化していくということが今必要ではないかと思います。市役所も大変だとは思いますが、研究所の4人か5人のメンバーだけではなくて、そのへんの仙北市の資源を活用することをしっかりやっていただきたいということ、先に見えるものを作っていただきたいということで評価は2です。

草薨委員

5は評価2です。6については、私もたまに研究所に顔を出しますが会話をしても私達にピンと響くような会話が出来ない。生産者も販売するほうもお互いに研究所も足元をじっくり見てやるべきだと思います。ただ人が言うのを聞いたとか見たとかではなくて、自分達が自分達のことだから足で歩いてとにかく見たり聞いたり作ったりしてもらおうということで評価は3です。8の加工の問題ですが、加工について大きい見地で見なくてとりあえずまずはやってみようという、確かにそうだと思うが、最終的にはどこに到達したということがないです。評価は2です。何となく中途半端だということです。

橋本委員

地域運営体の中でも色々な商品開発をしたり加工食品のコンテスト等をやっています。一つの軌道に乗ったのは桜木内地域運営体の中華ちまき、ちまきを加工して冷凍販売することで色々な面について団体の方々が喜んで秋田とかに出しています。皆さんに教えてもらって順調にいつているところです。農業生産されたものを商品化するのが普通ですが、農家への指導がもう少しアクションプラン5にしる8にしる同じところが結びつく感じがする。評価としては、失敗を恐れずに2年間本腰を入れて頑張ってもらえたという観点からオール3とさせていただきます。

西村委員

自分も商売をやっている関係で、新商品を投入する時には、開発した商品の実は3倍ぐらい、費用で3倍販売のためにお金を使わないとヒットしないです。絶対にそうです。やってみると実際にそうなのです。確かに良いものを作るためにこの人達の知恵を借り、報酬を払い、安い高いは別にして、その人達の知恵を借りて色々なものあらゆるものにチャレンジしました、ところがアンテナショップと同じように売るためにどれだけの金を使ったのか、人件費含む開発費にどれぐらい使ったのか、その3倍を投入しないものは売れないです。それだけやっていない。その責任は実はあなたの方のようにものを売ったことがない人がいくら頑張ってもダメなんです実は。だからこそ外から非常勤の人を呼んで知恵

を借りたつもりがこのザマです。だからもう少し考え方を教えてください。総合産業研究所の新設に対しての良いことだという評価は私も期待していたのですが、全く考え方がずれている。それは民間の方の考えとあなた方の考えのギャップがあまりに大きすぎた、外から知恵を借りれば良いと思ったが無責任な人を雇ったから評価は2です。6については地元野菜の使用率が上がったということだが、研究所が出来てその取り組みなどと言う前にもう30年も前に気がつかないとウソである。評価は2です。8は、食品加工産業群の育成と言っているが、育成なんてこと出来ますか、自分達が作った商品売れない人が。指導力ゼロだと思います。ちゃんとした商売をやっている人は研究所にそんなに期待しているのでしょうか。これも評価2です。

藤村委員 農産加工品を提供した経緯がありましてコメントを差し控えます。評価は5が2.5、6が3、8が2.5でお願いします。

佐藤委員 8に関してですが、2年間で課題が見えてきたということは先行きに期待できるかなというところがあります。特にマッチングの部分ではお互いに生産するほう加工するほう何が必要かということまでは見えてきたというのは希望が見えたところではありますが、やはり行政として民間が出来ない部分をやっていただきたいというのが一番あると思いますので、販路拡大であったりブランド化するところ等に期待されるところなのですが、結果としてここまではまだ成果が上がっていませんので評価は2にさせていただきます。

牧田委員長 3項目一気に評価して、本来一つずつやったほうが良かったのかなと思うのですが、もう一つだけアクションプラン7をやって休憩に入りたいと思います。
(休憩を入れてほしいとの声あり)
それでは今から休憩に入ります。

(休憩)

牧田委員長 再開します。商工課の関係のアクションプラン7と10と11について説明をお願いします。

平岡商工課長 アクションプラン7の市内と市外を結ぶ産業プラットホーム事業、11の中小企業振興条例の制定・支援の上層化、10の産業・職人マイスター制度の創設、この3つの順番が少し渾然とした話しになろうかと思いますがよろしくお願いします。最初に市内企業と市外企業を結ぶ産業プラットホームの形成です。産業プラットホームの形成ということも漠然として色々な解釈の仕方があろうかと思っています。そういった中で市では昨年9月に産業振興基本条例を制定しました。これはアクションプラン11の課題になっていますが、事業者の皆さんや市民の方々など様々な皆さんのご意見を幅広くお伺いしまして、議会で一部修正などを加えていただきながら制定した条例です。これにより市民・事業者・行政が一体となって産業振興を目指すための体制が、整ったとまでは言えない訳ですが、そういった体制づくりが、前進することが出来る体制が整ったという認識を持っています。具体的には、市内企業と市外企業を結ぶ産業プラットホーム事業は、第一には門脇市長が精力的にトップセールスを自らされていることがありまして、それが大きい一つだろうと商工課としては認識している訳ですが、商工課の事業としては県の企業誘致推進協議会とのタイアップによる各種活動があります。特に既に存在している誘致企業の皆さんとの懇談会は重要視していきまして、数ある自治体の中から仙北市を操業の場として選んでいただいたということで、最も身近な行政機関として幅広くよろず相談の窓口で徹して参りたいと考えているところです。もう一つは、先程来委員の皆様のお話しもありましたが、専門分野に関することはやはり餅屋は餅屋ということもありますので、専門機関に対する橋渡しをする、誤解を恐れずに申しますと、企業の方々に対して我々が訪問しましても、決して業

務上の専門分野に対して我々の意見を聞きたいとかアドバイスを求めるということではないような気がしています。身近な行政として困った時に何でも相談できるような商工課を目指して参りたいということで現在政策を推進しているところです。具体的にこの2年間どういった施策を実施して来たかについては、企業立地促進条例の一部改正を行ないました。今年3月議会で承認をいただき、これは建て替えの場合も新たに対象に加えることにして支援策の拡大を図っています。正直なところ製造業に関しては海外シフトということもあり、評価していただくとするればおのずと知れたところであろうと我々も十分覚悟している訳ですが、農業関係あるいは宿泊業関係等についてもこの優遇措置の適用についての引き合い等も最近いくつかあり、そういった意味では我々の取り組みが一定の功を奏している面もあろうかと考えています。大企業の方々に対する優遇措置はこのようなことをやっていますが、商工業・企業等応援事業費補助金制度ということで、比較的規模の小さい事業者の皆さんの新規開業・業務拡張に伴う設備投資に対する支援についても、この2年間頑張って実施して来ました。また、経営安定化の支援についても昨年3月の大震災によって影響を受けた事業者の皆さんも非常に多かった訳ですが、県の災害資金を利用された事業所を対象として通常の資金等は別枠で、利率1.5%のうち0.5%を10年間補助するという思い切った制度も県内の自治体に先駆けて仙北市が実施したということで、大きな誇りとしても良いのではないかと考えています。雇用対策としては時限的な措置ですが緊急雇用助成金制度、常勤雇用をなさっている事業者の皆さんに補助金を交付する制度、あるいは緊急雇用維持支援事業費補助金ということで休業手当等の国の補助のかさ上げなども単独事業としてこの2年間実施して来ました。商工課としても懸命に取り組んで来たということでご理解賜りたいと思います。アクションプラン10のマイスターの関係ですが、今の樺細工の現況は、角館工芸協同組合の23年度の産地概況調査がありそれによると樺細工に関係している方々は80事業所事業者が携わっていて130人の方々が従事、生産額は8億6千7百万円ほどのようです。10年前に比べますと非常に落ち込んでいて従業員数306人が10年後の現在は130人、生産額では10億9百万円から8億6千7百万円と落ち込みがあります。外部評価の秋田経済研究所の指摘の中には新しい取り組みが必要との記述もありました。今年のことでもPRさせていただきたいのですが、今年度樺細工の伝統工芸展40周年記念ということで初めての取り組みとして、樺細工のデザインを広く全国に募集する桜クラフトコンペという企画を現在実施中です。40件ぐらいの応募があったと聞いています。先程来新商品の開発は非常なコストがかかるとの話しでしたが、何百年の伝統・歴史を持つ樺細工ですので我々としても伝統的工芸品の一大産地の地位をゆるぎないものとして参るように引き続き努力していきたいと考えています。後継者育成についても補助金制度を設けていて現在1名の指導者の方の伝統工芸士に補助をして4年目になっています。また、昨年度はふるさとマイスター制度を制定しています。イタヤ細工・茅葺職人・食文化に関する栄養士・炭俵づくり・縄ないなどマイスター5名を任命して後継者育成のための活動をしていただいているところです。これを第2第3の樺細工に成長させていただくことが出来るように、未長い展開になろうかと思いますが意欲ある事業者の皆さんの支援に努めてまいりたいと考えています。以上です。

牧田委員長 今の説明への質問をお願いします。

佐々木委員 アクションプラン11に関する説明をもう一度お願いします。

平岡商工課長 産業振興基本条例についてですが、事業者の皆さん市民の方々の意見を伺いながら昨年9月に制定しています。関連条例として、アクションプラン29の仙北市の物品調達・業務委託等の市内優先発注に関する条例が一昨年先行して施行されているところです。この産業振興基本条例の基本理念の周知に取り組んでいます。事業者にはリーフレットを持参して事業者の皆さんに趣旨の説明をしています。趣旨を十分に理解していただきながら伺った意見をフィードバックして商工業振興のための施策に反映させていき

たいということで取り組んでいます。企業訪問の際に伺った意見でこれはというものについて市の施策に反映させた結果、新規開業の補助制度等を予算化させていただいたということです。

牧田委員長 アクションプラン7の、産業プラットホームの産業振興委員会の開催、首都圏の懇談会出席、企業立地セミナーへの参加等何回ぐらいにどれぐらいの人が参加していますか。

平岡商工課長 立地セミナーや首都圏等の懇談会等についてはトップセールスの機会ということでして市長及び部長等場合によっては副市長ということになります。そのレベルの方々と首都圏企業のトップの皆さんの懇談会という主旨であり、中京圏、関西、東京等で合わせて5回開催されています。プレゼン等がある場合は我々も同行し説明する機会もあります。産業振興対策委員会については昨年までは年1回だけ開催して、あとは企業誘致促進条例に基づく事業の申請があった際にはその都度開催する制度で運用していますが、今年度は委員構成の見直し等も予定しており条例改正が伴うので、9月議会で条例改正した後に早速委員会を開催したいということで準備は進めています。

牧田委員長 その他この件について皆さんから何かありませんか。

田口委員 アクションプラン7の企業誘致は一つの政策になると思いますが、実際にどのぐらいの企業がこの2年間で誘致に成功したかという実績を教えてくださいたいのですが。

平岡商工課長 はっきり申しますと、製造業については合併以後に企業誘致の促進条例の適用になった事業者はありません。この条例の適用になったのは昨年西木町にオープンした詫桜という日本企画さんの宿泊施設があり、ここは雇用要件と設備投資要件をクリアしていて仙北市としては第1号ということで奨励事業者として認定しています。現在は2、3の宿泊施設の設備投資についての相談を受けていますし、農業関係の法人からも相談をいただいているところです。

堺委員 アクションプラン7に関してはほとんど結果を出せていない、要するに企業誘致に関してはなかなか難しい状況があるということなので、これに対しては大幅な改善をしないと所得10%の改善にはならないのではないかと考えています。もう一つはアクションプラン8の中にも商工課関連のものが入っていて、全国ふる里ふれあいショップ上板橋とれたて村と大和市の2箇所アンテナショップを現在商工会で商品を提供というかたちでやらせていただいています。産業研究所ほどひどくはないのですがあまり良くはないです。それでも若干は増えて来ています。その予算のほとんどの数字はその場所の家賃です。家賃の負担分をやっているということで商品は商工会から提供するということだが、最大の悩みはライバル企業とライバル市町村が一杯いるという、一つのアンテナショップの中に日本全国から20町村ぐらいずつの店が一緒に並んでいる。そのために家賃が月額5万円で安いということで販売員の提供もいらぬしむこうが全部やってくれるということだったので出店した訳ですが、自分のスペースがこのテーブル一つ分ぐらいしか取れないという最大の欠陥もあるので、商品力については非常に厳しい状態にあります。これに関しても出来るだけ改善したいと思っていますが、商工会としては商工課で直接最初に事業に申し込みしたものを委託を受けて運営していることなので、いずれにしてもそれは改善していかなければいけないと思っています。それからマイスター制度については、樺細工は売上高の落ち込みが激しいからそれをどうするかというのは、考えてみれば仙北市内で特産品と呼べるものは何があったのかということからすると樺細工をなくす訳にはいかないだろうという、これだけの人数が減っているのですが、実際に市内だけではないところに事業所が結構出来ていますのでトータルでこれほどひどい落ち込みという訳ではない、商品力についてこの前NHKでもやったし昨日テレビの取材とかも更に来ていましたが、

外国に対しての売上金額が増えて来ているということなので、そういうのを活かしながら高級品化していかなければいけないと思っています。アクションプラン11に関しては、これも商工会でお願いした分野が多いので私が言い訳しておきますが、昨年の大震災の関係で一気に商売に詰まった人がいるということで、そういうことに関してどうするのかということが色々話し合われました。予算規模は結構大きいです。震災関連それからこの不景気の関係があって利子補給の部分を結構しないと下支えが出来ないということがあります。前に借りたお金は特別に金利を安くしてもらったのだが返済が始まります。そのため企業に対しては非常に危機感が出て来るのではないかと、今年からの返済と来年からの返済と両方あります。本当は売り上げが減少した人にだけ貸し出してあげれば良かったのだが、前から苦しい人もついでに借りる人も多かったので、今後の危機感に繋がっていくのではないかとと思っています。企業誘致に関しては制度資金としてお金はいただいている、なかなかお店をあらためて出すというところは少なかったのですが、徐々に増えていて2件4件、今年度はすでに5件目のお店が出ていて年間7、8件まではお店が出ていくだろうと思っています。これは他の市町村ではなかなか出来ないことなので仙北市ならではのことなので頑張っていきたいということで、市から何は件増えても上限は30万円ですが30万円の開業資金は補助しますとお話しをいただいているので今度補正予算でまたお願いしたいと思っていますが、その点だけは言い訳をしておきます。

佐々木委員 アクションプラン11ですが、産業振興推進委員会をどのぐらいの頻度で開いてどのような活動をやっているのですか。

大山商工課課長補佐 22年度に1回、23年度に1回です。今年度から2回分の予算をとっています。昨年場合は産業振興に関する施策の報告とそれに対する意見をいただいています。

佐々木委員 5人のマイスターの件ですが、昔からのものをやるとすればマイスターを増やしていくということは考えていますか。

大山商工課課長補佐 毎年10人を目途に認定していこうと計画していて、どのような方でも自薦他薦は問うていません。

平岡商工課長 まだ漬物とか色々な候補、適任者がいるのですが。

佐々木委員 茅葺とか絶対やらなければいけない残していかなければいけないもの、それからわら細工とか色々と後世に残していかなければならないものがあると思います。

平岡商工課長 産業化につなげるためにも継続していく、残していく継承していくということを主眼において取り組むということです。

大山商工課課長補佐 そういった活動をされた場合は一定の条件で1日5千円ずつになります。

佐々木委員 これは今後増やしていくということですね。

大山商工課課長補佐 どんどん増やしていくということです。

大和田副委員長 増やすのはもちろんそうですが、マイスターだよということを、市民がマイスターに注目するような何か場を作るとか発信するとかそのようなことは考えていますか。

大山商工課課長補佐 市のホームページには名前だけは載せていまして、昨年からは始まったばかりでもう少し増えればなと思っています。

- 大和田副委員長　やはり市民がその価値を知るという場も必要だと思うんですね。本当に厳しいと思います。だけど外国の方が来られたら高給なものに対してお土産として持ち返りたい、けど手頃なものがちょっと、日常のものは多く並んでいるが、やはり高級なものをもう少し揃えてくれたらなという要望がありますし、樺細工の伝統工芸の価値を仙北市民自らがもう1回見直す、そのためにマイスターをみんなで育てていくというようになっていったら素敵だなと思います。
- 草薨委員　マイスターの今現在やられている種目を教えてください。
- 平岡商工課長　現在マイスターをお願いしている方々は、茅葺職人の方が2名、縄ないの方が1名、郷土料理の方が1名、火振りかまくらの俵編みの方が1名の計5名です。
- 牧田委員長　大和田副委員長が言われたように、そういうことはあるということがもっと周知されることで関心を持つ人がいるのではないですか。
- 大山商工課長補佐　毎年広報には掲載しています。
- 牧田委員長　広報はそうでも、何らかの関係で集まりがある訳だから。
- 平岡商工課長　学校とかあるいは産業祭でマイスター広場をやるとか色々なアイデアはあると思いますので。
- 牧田委員長　冬場とか、例えば退職した団塊の世代の人達をあえてターゲットにしなが、これからの生き方の中でこういうものがあるんだよというような絞り方も含めて広めて、色々集まりがあるでしょう集落の。
- 平岡商工課長　公民館活動等とも連携しながらこれからアイデアを持ち寄りながら何か進めたいと思います。
- 牧田委員長　是非お願いします。
- 橋本委員　足を運んでその場に行ってということだと思います。だいたい噂で聞こえると思う。
- 牧田委員長　刷りものやインターネットでなくて、そういうのはなかなか見ないし徹底しないので、魅力を語っていただきたいと思います。
- 田口委員　実際に所得を向上させるのが最終的な目標なので、その数字が最新のものがあれば教えていただきたいです。
- 平岡商工課長　マニフェストに掲げている数値は国の統計の数値をあげていまして、まだ公表されていないこともあり、商工課で所管している部分についてはマニフェストに掲げている数値がまだ最新の数値ということです。
- 田口委員　マニフェストはもう2年半ぐらい前なのでそれ以降統計が出ていないということですか。
- 平岡商工課長　だいたい5年刻みで統計がありまして公表されるのがさらに遅れるということもありますので、質問を想定してそれぞれの数字を確認しましたがこれ以上の数字は見つけれませんでした。

田口委員 そうですか。毎年発表されているのではなかったですか。

事務局 統計物は基本的に5年だったり2年だったりということがあります。今回対象の商業統計は5年刻みになってしまいます。

平岡商工課長 6年目に出るかということその後に2, 3年のインターバルがあったりして公表が遅れることになります。

田口委員 マニフェストに書いてあるのは分配所得でこれは毎年ではないですか。

平岡商工課長 当初の設定が172万円で23年度が173万円となります。23年度にはなっていますが実際は22年度の数値が23年に公表されたということです。

大和田副委員長
事務局 23年度の大震災を経た年はかなり下がっている可能性がありますね。
 これは毎年3月に公表になります。

田口委員 173万円というのは仙北市内で集計した数字ということですかね。まだ公表されていない数字で仙北市内で集計して173万円だったということ。

事務局 これは秋田県市町村経済計算という県の統計資料がありましてその数字です。もともとマニフェストにある172万円もその統計資料の数字ですので、基本的には同じ資料から持ってきているということです。

田口委員 これは23年に発表された22年度の173万円が最新ということですね、わかりました。

西村委員 この統計数字が県だという話ですがその数字はどこから出ているのか、県の人から調査に来るのですか。

事務局 そこは確認させてください。単純に出ている数字を見ているものですから。

西村委員 市では数字に一切関知しない、向こうから来るのを待っているだけですか。データを出してやっているとかはないですか。

倉橋総務部長 データは市からも出ています。ただそれだけではなく民間からも色々なものを集めて県で計算して出しています。

西村委員 例えば税収だったり所得だったりというのは市町村から基礎データとして数字を上げてやらないと県庁の人がいくら性能が良いといっても出来ないはずである。

倉橋総務部長 当然税収的なものは出ていっています。

平岡商工課長 雇用者報酬、財産所得、企業所得で構成を組んでいて、それを県で取りまとめてデータとして出しているということです。

西村委員 そうだとすれば、確かに22年のものが23年に今回やっと出て来たという話ですが、もう少しと分析とか調査とかが早くなければダメである。県の仕組みがそうだとするのはなくて、基礎データはここから出しているとすれば自分達だけでも検証は早くやらなけ

ればダメである。2, 3年後に出て来た数字を上がったとか下がったと喜んでみたところでその分遅れてしまう。仕組みとして出来ないかもしれないが、他市町村より1.5倍の職員の頭数が多いので仕事をしろ。だから怠け者だとか能力のない奴ばかり揃っていると言われるのはそこである。制度として出来ないかもしれない、勝手に県でも発表していないのに身内から出した数字だから仙北市はこうだとは言われたいかもしれない、それにしても数字を頭の中に入れて事務方だったり当局がスピード感を持ってやらないといけなと思います。スピード感のない政策は絶対に話しにならない。ニーズに合っていないから。幹部職員は特にスピード感がないことには管理者でない、実際そこはピリピリしながらやってもらわないと気の抜けたビールみたいになってしまうと思います。もう一つマイスター制度は良いことだと思います。樺細工は、10年前は300人ぐらいの従事者がいて10億円を売り上げた、1人あたり300万円ぐらい、今回は130人になって8億円で生産高が減ってしまったが、1人あたりにすれば倍の600万円ぐらい売れている。1人当たりの所得は10年間の間に倍になっている。ものが売れないとは言いながら所得が10%上がるどころか2倍生産している。ただ問題は、これから300人まで増やしてもっと売り上げを上げる、そこまでやれるようなところまで育成する気があるマイスター制度をやるということであれば、もっともっとマイスターを露出させてすごいなという話を地元も含めてアピールすること、売るためのためにいくら金を使えるかということ。デザインを広く全国に募集する桜クラフトコンペという企画は40周年に向けて良いことだと思います。そのかわりそういうことをやったら華々しく売るための金を3倍かけてください。絶対成功します。予算がないと言わないで、その金のメリハリをきちんとやらなければ売り上げは上がっていかない。ただ公募しました、全国からデザインが来ましたではどこかの温泉の3兄弟みたいな話して、出来ましたというだけで、製品化してそれを徹底的に彩り上げている、そのための金を一杯使う、露出をどんどんさせるということが必要だと思います。ヒット商品を作るということ、産業を育成するということはそのことなのです。期待しています。

佐藤委員 7のプラットホーム事業ですが、震災があったのでかなり厳しい状況だとは思いますが、逆に震災があった影響で新エネルギーとかグリーン産業に関連したものの企業誘致であったり問い合わせ等はないものか、若しくは今後そういった何か対策はとられているのかお聞かせください。

太田観光商工部長 我々のところのセクションとしてはありません。ただ昨日県の会議の中では方向性としてはそういった方向性があるということは出て来ています。

牧田委員長 それでは評価に移ります。田口委員からお願いします。

田口委員 アクションプラン7は、詫桜は外から来ているのではなく市内からの話しなので、外からの企業誘致は進んでいないということです。着手はしているが先行きが見えないということで評価は2です。アクションプラン10は、産業・職人マイスター制度の創設ですが、皆さん色々高い評価を言われましたが、これはどういう効果があるのかなというのがわかりません。どの程度の効果があるのだろうかということに私自身疑問を感じる場所があります。取り組みはされていますので今後どういったかたちで所得を増やすというところに繋がっていくのか、足の長い話しかと思いますがそのところを確認出来ないで評価3とします。アクションプラン11は一定の成果が出ていると思いますので評価4とします。

堺委員 7に関しては、これだけよそに行くのが好きな市長がいながら、誘致企業をなかなか連れて来れないというのは、せつかく行ったのだったらクニマス以外も何か連れて来てくださいというのが素直な気持ちです。この項目は上に4年間で所得を10%以上増やします

という大命題になった項目の中に入っているのも、とても評価としては2以上は付けられない、これで所得10%目指すための事業とすれば詫桜1件だけというのは評価としてはあまり良くない、副市長が来たのだから今年3つぐらい誘致企業を連れて来てもらえれば本当にありがたいと思います。10は、売り上げが下がっている訳なので、マイスターを制定するということが良いということになると厳しいのかなということで、一番上にある4年間で所得10%以上増やしますというのが非常に頭の中で気になるので、そういう意味からすると厳しいかもしれないが評価2です。先程西村委員が言ったのですが、よそに工場を持って行ったというも、お店はここにありますが工場がそっちにあるということで売上規模との関係からするとその割に職人の賃金は上がっていないというのが現実です。11は、産業振興基本条例の制定については私も関わっていますので言いにくいのですが、条例を制定することに対しては非常に市として熱心でした。熱心だがせっかく条例を制定したのに何かやるという話しは一つも出て来ないので評価は2です。せっかく作ったのだから何かやらないと所得10%以上は出て来ないのではないかと思います。

佐々木委員

7のプラットホーム事業は、残念ながら所得10%という命題があるので評価3という訳にはいきませんので、企業誘致がほとんどゼロに近いということ、本来であれば分配所得172万円の10%の190万円、けれども200万円というような目標を持ってやってもらわなければならないと思います。所得200万円でもたった200万円かよという感じになるので、そういうことからするといかに大変なことであり、やはり企業誘致は所得がアップする一番の効果のあるものなので、それが今のところゼロなので評価は2です。10についても、所得10%の関係からすればマイスターのかたちが10%に値するかということではかなり厳しいと思うので、本来であれば評価2ですが、マイスター制度は所得10%以外にも絶対残すべきだという意見を付けて評価3とします。11は、産業振興基本条例を作ったことは評価出来ると思います。あとはいかに課題を今後どうするのが一番重要なので評価は3にします。

大和田副委員長

7は、本当に市長が精力的にトップセールスに回っていますが、秋田県全体がそれぞれ企業撤退が続いている時に企業を誘致することがどれほど大変なことかはわかるのですが、それだけ足を運んで得た情報で仙北市において何をどのように整備すれば可能性が出て来るのか、そこらへんを見極める必要があるのではないかと、そういう作業が必要ではないかということと、既存の事業所も大変苦戦している訳ですが、既存中小業者もどうやってこの困難を乗り切るのかということの連携も問われている時代に今直面していると思います。何しろ一生懸命やっているということの評価して2とします。10は評価3とします。これで直接的に収入がどうアップするかということではなくて、仙北市における色々なアイテムがとても光を放っていくことで仙北市全体がもう一つ展開していきけるという、そういう意味の一つではないかと思っておりますのでこれからの活かしようだなと思います。評価は3です。11は条例を制定しましたので、この条例があるからこんなこともあんなことも可能だよという可能性をもっと発信すべきだと思いますので、作ったところまでは評価しますので3とします。

牧田委員長

7については相当大変だろうなと思います。何を特徴付けて誘致するか、気候的な条件も含めて、トップセールスということでそれにかけるのはわかるが、なかなかこれに期待するのは難しいのかなという感じですが。評価は2です。10のマイスターについては、これからどういうマイスターを作るかということがありましたが、活かしようによっては活きるのではないかと考えています。火振りかまくらの俵とかを作る資材というのは、これだけ減反になって空いた田んぼが一杯出来て、そういうものを使った何らかのものが作られることによって活かせるのではないかと、観光にも活かせるのではないかと、まだわからないがそういう可能性はなくはないと思っています。藁細工一つとっても、来たお客さんにそれを習わせることで、かつて中国人や韓国人のお客さんにわらじを作らせたことがあり

ました。言葉も何も通じないのだが、ただ縄をなつてそれをぶら下げただけで喜ぶます。あれを見た時に時代は変わっても心は変わらないなと思って、それを活かす方法はあるような気がします。評価は3.5にします。それをどう活かしていくかということ的前提にしていますが、それは一緒に考えていきたいと思ひます。11については条例が出来たことを評価して3とします。

草薙委員

7については、仙北市の中に企業誘致の場合の人脈がないのか、色々な手法があると思うがやはり人と人とのつながりの中で結ばれるのではないかと思ひます。仙北市から中央に出ている人が一杯いますので、そういうことを考えたらまだ夢があるのではないかと思ひます。評価は2です。10のマイスターについてはやるべきだしやっけていかなければいけないと思ひますので、方向性をきちんとして我々がわかる体制であれば良いのではないかと思ひます。良い方向に向いていくように努力していただければと思ひますので評価は3です。11は評価3です。

橋本委員

7については予算も大して付いていないようだが、もともと何十年も前から企業が来ることによって雇用の場が生まれ少子化対策にもなる、とにかく今は県でも少子化対策と言うが仕事がないから子供達が生まれない、そういうことからいけばこの件についてはもう少し頑張つて努力してもらいたいと思ひますが評価は2です。10のマイスターについては、私も商売で回つてみればツル細工など素晴らしい技術を持っている人達がいます。けれども売るということをしないでくれますよと、地産地消にでも出してくださいといつも言っていますが出す気もない、しかし色々育成していく必要があると思ひます。評価は3です。11については、こういうご時世だから何とか活用出来るようにもう少しPRしながら使ってもらえればということで評価は3です。

西村委員

企業誘致は難しいと思ひます。止めるとは言いませんが粘り強くやる必要があるのですが、国内からも逃げていく時に秋田県の雪の降るところに企業が来るか、それだけの安い賃金があるか、条件はどうだかということかなり難しいと思ひます。それよりも今現存している色々なホテル業や製造業をやっている人達にもう少し何か、例えば企業誘致のための工業団地を作つて格安でやるとか何年間事業税取りませんよとか色々なことをやっけて企業誘致をやっている色々な自治体がありますがそれでさえも来ない、そしたら我が仙北市はどうやるのですかということからすれば、市長がいくら東京に走つて行つたつて来ない、まず無理だろう、簡単ではないと思ひます。それよりも大和田副委員長が言つたように現在ある企業の雇用をいかに守るかというための施策・知恵・物心両方で応援してこれ以上ここの雇用を減らさないということのほうが得策なような気がします。何でもかんでも補助金を出して優遇しろという話ではないですが、それも結構やっけていますが、7の内容だけを見れば評価は2です。10のイタヤ細工・わら細工・ツル細工・樺工芸品のことは先程言ひました。マイスターも良いですが出来た製品を公募してすごい光を当ててどンドン売る、どンドン売るために、アンテナショップは心許ないですが、何かの機会に本当に売つるために一生懸命やれば、ヒット商品を一ツ作つてああそうかということ全国に知らしめれば、今作つている人達もマイスターの人達もなかなかデザインのことまではいかないので苦心しているし、新商品のための開発、それから開発された商品に光を当てる、それを売つるためにやれば2億円ぐらいの売り上げはすぐに上がると思ひています。ここは取り組もうとしていることを評価して3.5にします。11の産業振興基本条例を制定してくれたことはありがたいと思ひています。それから震災の後の利子補給もかなりの金額が投入されました。これも他の市町村に先駆けてやつたというスピード感が良いなと思ひています。ただしこれから返済がある、緊急だったからみんな活用して一息ついたところですが、これからいかに本当の実力が出来て来るとかという話しです。もちろん借りた側の責任だとは言ひながら注意深く手厚い指導を徹底してやっけてほしいと思ひています。実は金を出して終わりではなくその後どうなつているかどういふ取り組みを

しているかというのを、商工課はある意味でコンサルタント業みたいなことをしっかり勉強したほうが良いです。施策だけ作るのではなく資金面だけでなく色々なことを、コンサルタントみたいなことで親身になって市役所が先頭になってやるべきです。そうしないと所得は10%なんて上がりませんよ。夢の夢で選挙用にしか聞こえない。取り組んだこと今やっていること、それから緊急雇用で助成金、緊急雇用のために1年間時限でやっていること、確かにその場しのぎのというか仕事がない人達にやるのは結構なのですが、もったいないような気がします。1.5倍の職員がいるのだからもっと生産の上がることに実は金を使うべきである。産業育成のために将来金になることに金を使うべきだと思います。評価は3です。

藤村委員

7については、誘致企業が見込めないのであれば首都圏の企業のノウハウとか技術を地元企業に伝授して、そちらの方向にシフトしたほうが一番早いと思います。評価は2です。10の産業・職人マイスター制度の創設は良いことで、技術というのは対価としては限らない何百万・何千万に値する価値だと思いますので、ただからくちやに誰にでもマイスター認定するようなものではなくて、本当の技術を継承出来る人に伝授してもらいたいと思います。評価は3です。11の中小企業・産業振興基本条例も私も委員で行きましたので条例の制定はなされたが、何をやるのかは何も見えていないのでそこらへんを早急にしてもらいたいと思います。支援は結構なされているということで評価は3とします。

佐藤委員

7ですが、企業誘致はとにかく厳しい現状だというのは皆さんに同意ですが、震災がありましたこれで話しが変わってきたというところもありますので、今後のこの事業の進め方は一から見直してやる必要があると思います。続けるにしてもクリーンエネルギーであったり新エネルギーに向いたり農業法人であったり、限られてくるとは思いますがそういった方向性を変えていく必要はあるのではないかと思います。現状結果がまだ出ていないということで評価は2です。10の産業・職人マイスターに関しては、仙北市の貴重な資源というか伝統工芸品であったり素晴らしい文化があるのですが、全てを作るのは人材、人が作るものなのでそこにマイスターというかたちで光を当てたという制度自体は素晴らしい制度だと思います。まだ上手く活かされてはいませんがとにかく人材に目を向けていってそれに進んでいるということは素晴らしいことだと思いますので、今後の期待も含めて評価は3.5とします。11に関しては今後の課題がまだまだたくさんあると思いますが、まずは条例を制定出来たということで評価は3とします。

牧田委員長

ありがとうございました。次は仙北市の重要な観光の問題ですのでじっくり早くやりたいと思います。説明をお願いします。

草薨観光課長

アクションプランの9と11は関連がありますので一緒に説明させていただきます。初めに9の観光産業拠点特別区の創設ですが、角館・田沢湖畔・乳頭・高原・水沢・玉川を観光産業拠点特別区として重点的に施策を展開しようということで、観光産業拠点特別区観光戦略会議を15人の委員で開催しています。会議は3回持ちましたが2回目を終えたところで中間報告ということで緊急提言がなされています。これについては、仙北市として観光を進めていこうとしていましたが、実際に全国にキャンペーンキャラバンとか色々なことで仙北市の名前で売っていてもなかなか理解してもらえないということで、仙北市は角館・田沢湖というブランドがあるではないかということで、ブランド化したらということ提言されています。これについてはロゴマークを作ったり田沢湖・角館というブランド化を進めるということで、ロゴマークは公募して作成しています。最後に提言を受けましてこの提言の中には4つあります。一つは仙北市全域に共通する提言として大きく三つにわかれており、地域ブランドの確立、これはロゴマークと地域ブランドのことで、二つ目としてスポーツツーリズムの推進として担当課の設置とかスポーツ大会関係に関して田沢湖病院の救急指定を早くするべきだとの提言があります。これらについては教

育委員会にスポーツ振興課を新設していますし、田沢湖病院の救急指定は医療局で医師確保対策を頑張っているところです。三つ目として秋田内陸縦貫鉄道の愛称、縦貫鉄道に愛称を付けたほうが良いということで提言をもらっており、これも昨年ですが秋田美人ラインという名前に決まっています。その他角館拠点特別区・田沢湖畔拠点特別区・乳頭・高原・玉川・水沢拠点特別区とそれぞれ3つありますが、これらもそれぞれ提言を受けており、これについては観光戦略会議の中に分科会を設けてこの中で揉んでいただきそれぞれの提言を受けて、今現在すぐ出来るものはやるようにしていますし、時間やお金がかかるものは別の方法で行ないたいということで考えています。アクションプラン13の市観光協会・地域団体との連携推進ですが、仙北市には3つの観光協会がそれぞれに活動していてこれを出来れば1つにしたいということで、すぐに1つにするのは出来ないとのことから、その上に連盟を作ったらどうかということで平成22年に観光協会の連絡協議会を発足しました。そして昨年6月25日に田沢湖・角館観光連盟が発足しています。これには田沢湖・角館というブランド名を頭に入れた観光連盟としたところです。観光連盟ですが、昨年は大震災で本当にお客さんが少なく大変でしたが、観光連盟が主体となってみんなで総力を挙げてやったところですが、特に秋田美人100人キャンペーンは本当にマスコミの反響も大きくオール仙北で観光宣伝が出来たと思っています。また100人キャンペーンに合わせて仙北市にゆかりの方達に是非里帰りをしてもらいたいということで、県外の方達に里帰りキャンペーンも行なっています。また、市内ですが温泉入浴無料券を各世帯にお配りしています。県内向けには宿泊クーポン券を第1段から第4段までやりましてゴールデンウィークから今年の3月まで配布しています。いずれにしても3つの観光協会と一緒に市も合わせながら、また他の関係団体とも一緒にとにかくお客さんに来てもらいたいということで今現在進めているところです。以上です。

牧田委員長 それでは質疑に入ります。質問・意見をよろしくお願いします。

大和田副委員長 観光産業の概念ももう一度捉えなおす時代に来ていると私は常々思っています。観光の新しい切り口は農業であったり、農家民泊・ハウスステイがとても大事な観光の切り口になっていると思います。観光産業拠点特別区は3つとても大事です、本当に拠点ですから、拠点として大事ですが、実は西木であったり角館であったり仙北市全体に点在する農家民泊・農家レストラン、それから一般農家さんのホスピタリティの能力の高さということに本当に今これは宝なんですよということに是非着目してほしいと思います。そういう意味では観光産業という捉え方がやはり従来どおりで少し狭いのではないのでしょうか。つい先日アメリカからピープルtoピープルで中高生を引率含めて70名お迎えしました。昨年にお話があった段階では仙北市に3泊滞在したいとのことでしたのですが、視察に来られたアメリカの財団のシニアディレクターを含めて農家民泊に滞在したりずっとご案内したりして、とことんそこに感動されて3泊の予定が今回は4泊5日うち3泊が農家泊です。1泊は最後にわらび座に泊まっていたいただいて大交流会をしたのですが、その人達の感動に日本滞在14日間の中で仙北市が本当に素晴らしかったと、引率されたアメリカの引率者が18カ国訪問しているがこんなに優しい人達に出会ったのは初めてですという言葉を残していかれました。仙北市が持っているこのホスピタリティの素晴らしさについては是非観光産業としてもっと広く捉え直していく時代なのではないかと思えます。この皆さんは来年以降も是非長い付き合いをしたいということで、今回70名が4泊で200万円を超える滞在費を落としていってくれましたが、インバウンド専門のJTBの担当者はハワイからもオーストラリアも冬場に連れて来たいという話をされていて、今プランを提出しているところですが、是非そういう意味では仙北市全体が持っている美しい景色と美しい農村風景と農の営みとその営みを毎日作り出している農家さんのホスピタリティの素晴らしさを仙北市の新しい観光資源にして捉え直す、古くて新しいです30年も40年もやっていることですから、ずっとやり続けて今まさに更に力を発揮しているということ捉え直して、そしてかつ、添乗で来られた皆さんも温泉も田沢湖も角館も素

晴らしくて資源が揃い過ぎていて今度ゆっくりプライベートで来たいと皆さん言っているのですが、深く入れば入るほど惚れ込んでくださるというこの魅力を是非押し出していくべきだと思いますので、拠点づくりをしながら概念を広げることについても意見として申し上げます。

牧田委員長

私もかつてわらび座にいてそういう仕事をしていましたが、実は日本の中でも小さいけれども確実に広がっています。おとし大曲の花火に来た人達を案内したのですが普通であれば帰りが遅くなる場所裏道を抜けて早く帰って来て宿泊先として連れていったところは農家民宿でえらく感激されました。先日東京に行って3ヶ所小さいところだが行って来ましたが、全員が祭か花火か紅葉に来ると言って泊まるのは農家民宿、もうリピーターになるんですね。そこで出される食事がみんなマイスターなんです、農家のお母さん方の食事というのは。そういったことも含めてとても大事な視点だと思います。これはこれから伸びると思っています。

草薨委員

お二方の発言について私も最初からそう考えて今までやって来ましたが、特に私が言いたいのは冬の概念です。雪というものをいかに逆手に取るかということ、仙北市としてはそのものを備えています。田沢湖スキー場がどういうものかを考えてみればすぐにわかります。世界に行ってもこれぐらいのスキー場はないし日本の中にはないです。これをただ単にお客さんが来ないとか景気が悪いということで手を付けない、付けているとは思いますが、もっと仙北市の中に取り込んでいく必要があると思うしやらなければならない、冬の間ただ手あぐらをかいて雪かきは大変だというようなことでなくて、そういうものを見分け方もする時期ではないかと思っています。

西村委員

観光連盟を作ってブランドで売るという話しにして、みんな観光に長い職員が一杯いますので私が言わなくてもわかっていると言われそうですが、やはり平成15年をピークにして宿泊で半分になってしまった。80億円79万8千人が泊まっていたのが今40万人になっている。早い話しが宿泊の40億円マイナスになった、誘致企業どころの話ではない、40億円稼げる誘致企業は絶対に来ないから。そういうことからすると、農家民宿の話はさすが歴史があるから先程のような評価をされるべきで、この歴史とホスピタリティはあちこちで真似出来ない。いかにそのへんのホテルが、そうでなくてもあちこちで閉鎖したり売りに出したけど売れない、そんな状態の中でいかにこれをもう1回、農家民宿の切り口も含めて、畳が腐ったり屋根が飛んでしまって修理も出来なくなる前に何かやってまた80億円に、それから200万人来ていると言われている田沢湖・角館に来ている人を呼び戻すことに、実は、誘致企業対策であちこちに飛んで歩かないで、ここにある今現在畳が腐る前に屋根が落ちる前にこれに全精力を挙げてやるのが、所得10%上がりますよ。試算してみたら、宿泊施設で20億の宿泊料金が減少になったことで田んぼに換算したら神代と西明寺農協で米粒が1つも取れないのが20億円だった。観光で落ち込んだら宿泊だけでそれだけ落ち込んだらこれは由々しき問題です。だから前の市長も今の市長も観光拠点都市を目指して諸々やってきて正解なのです。ただそれに対して、もちろん観光連盟が関わったり観光協会をやっているから今のところは歯止めにはなっている。しかしそれだけではもう1回80億円になるかという話しです。委員長と副委員長が言ったようなことも他にない特徴、他にない長所である。それをも活用しながら是非観光で飯を食うことをもう1回全職員・全市民を挙げれば、そのへんのネギやワラビやミズなどが売れるはずである、雇用も絶対に増えるんです。ホテルの布団敷きのおばさんとかも忙しくなればいくしリネンも食材もガスなど、ガスを配達する人に聞けばすぐわかる。100人の魚を焼くか30人の魚を焼くかでガスの消費が違う。みんな総合力なんです。是非このために全職員・全市民が総力を挙げるのが、うちは宿屋に関係ないというのでなく、ものすごい経済効果がある、それに対して100人キャンペーンをやったり色々なことでアイデアを組んでもらってそれなりの予算も付けてもらってとりあえず歯止めはかかっ

ている。さらに前進するための施策をみんなで一生懸命考えてやれば、今言ったように観光で生きるしかないんです。それに繋がって色々な商売が恩恵を被る訳だからみんなで知恵を出し合ってやりましょう。これで生きるしかないです。農業の人もいますが米が2倍に売れることはまずない。40億円を80億円にするには簡単ではないのだが、今の農林政策からすれば減反がはずれることもない。それよりだったら今まで実績のある観光でもう1回命がけでやるしかないです。それで所得10%までいくかはわからないがとにかく得意なことやるしかない。仙北市は秋田県の中では観光が一番得意なはずで、その長所を伸ばさない手は絶対ないからこれを命がけでやるしかない。今のところ良い方向に向きつつあると思っています。

牧田委員長 首都圏・仙台への働き掛けはあるのですが、北海道その他に関しての働き掛けの姿はどんなものでしょうか。例えば修学旅行なんかも含めて。

太田観光商工 昨年の震災以降の部分では本当にゼロになりました。それまではだいぶ成果がありまして4千人ぐらいの子供達が北海道からという状況もありましたが昨年だけはどうしても全くゼロという状況です。

牧田委員長 いわゆる風評被害も含めて色々あったでしょう。それに対してその後の1年がどういう取り組みがあったのでしょうか。

太田観光商工 それぞれにはやっていますがなかなかという状況です。

部長

西村委員

キャンペーンもやっているのだがなかなか壁が厚くなってしまった。

牧田委員長 わかりました。他の方から意見ををお願いします。

佐々木委員

大和田副委員長が言われた海外の10人ぐらいの男の子、中学生と高校生と一緒にいる機会がありました。白人・ヒスパニック・黒人のグループが農家民宿に泊まっている。こういうのは非常に国際交流もそうだし常にこういう人がいれば刺激になって良いという感じを受けました。私は高原に行く途中に住所がありますが、秋田県の表玄関という割には本当にそうかなと感じている訳です。というのは、ゴミは捨てられるし春季のクリーンアップの時のカン類の山とか色々ある訳です。今はほとんど県道脇の草刈りの予算がないという状況でほとんどされていない。そういうことからして本当に秋田県が観光に力を入れているのか、「あんべいいな」と言っていますが全然あんべ悪い訳です。観光で飯を食うのであればそれだけのことをやらなければいけない、景色が汚いところは誰も見たくない、草ぼうぼうの県道な訳です。今この重点特別区がある訳なので、例えば田沢湖畔から乳頭まで全部草刈りを全部しておくとか、秋田県の表玄関の観光地とは何を言っているのかという感じを受けている。というのは私がボランティアでその草刈りをしているから良くわかる訳です。外国人が来る日本人が来るまごころがあるというようなこと、いわゆる欲しい点が全部ある訳です。農家民宿でNPOもあるし西木にもグリーンツーリズム事業があるし非常に恵まれた地域であって、他の地域は自分で作らなければならない、ところがここはあるんです。あるものをいかに利用するかということでそれを大事にしなければ、例を取れば草刈りをしないような観光地であればやる気があるのかと、そこあたりを踏まえてやっていかなければ、色々なアイデアは出ていますので併せてやってもらえればと思います。

堺委員

一番良かったのは観光連盟が出来て名前が田沢湖・角館観光連盟という非常にわかりやすい名前になって、外に対してのアピールがこの2年間の間にしっかり下地を作ってやってくれたということについては非常に良かったことだと思っています。ただ、1階の上に

2階を上げたような状態をどこまで、要するに観光協会各所でそのままのかたちで残ったうえで観光連盟を作って役割分担をどうするのかは今後の課題だと聞いていましたが、それについてはどうするのですかというのが聞きたいところです。それから、いつも考えているのは仙北市で観光客をこれだけ集めてご飯を食べる時に何を食べるか、きりたんぼ・稲庭うどん・比内地鶏の3点セットでほとんど市外からの商品の供給を受けている、それに対していつまで危機感も何もしないでやってくるというのは非常に困るのではないかと考えています。そのために総合産業研究所が出来たのではないかと考えているのだが、いつまでたっても悪循環から抜けられないということがあって、そこらへんの工場建築というか、例えばきりたんぼはここに米がある訳だからここで生産者を育てるとか、そういうことをせっかく観光課と商工課と隣同士にいて、観光と商工が連携し合うことによってそういうことが出来るのではないかと強く思っているのですがなかなかそこにいかない。お互いに同じ部屋にいるのに意外と連携性があまりないなということを、何回か行っている間で感じるところがある。古株の方がそういうところを調整してくれるのが当然だと思うのですが、どこまでいけば3点セット・3種の神器みたいなものから仙北産に切り替えられるのだろうかということについての施策をこの2年間の間にやって来ないから、観光客が増えてもご飯を食べるのをよそのものばかりを移入するとお金にならない、所得が増えないということがあるので、そのところに関しては非常に不満です。農家民宿に関しては基本的に地産地消をほとんど守っている訳なので良いのですが、一番大量に来る人達、我々が最初にスタートしてやった時に、たぶんきりたんぼだけで1年間で200万本から上は食べられているのではないかと、いぶりがっこも同じようにして我々が生産に入って最初が3千本からスタートして今年度は3万本を目標にしてやる訳ですが、それでほしい5~6%ぐらい、94%はまだ向こうにお金があるのではないかと考えているぐらいです。それがほとんどよその町で作られたものがこの町に入ってくる、お土産品も似ています。こういうことに対する重点的施策をやることによって所得を増やすということは非常に必要なことです。桜のいぶりがっこを作る時に農業者に協力を求めてもなかなかないというようなこともあって、その類も難航しているのでそこらへんを共同化した地産地消をもっと進めるための協議会等を作って前に進めていかなければ難しいのではないかと思います。

太田観光商工
部長

古株の責任で申し訳ありません。今後検討して参ります。

大和田副委員
長
草薨委員

本当に総合的に全分野が総合力を発揮したらすごいことになる。

今までそこまでやれなかったことをこれからやるということは並大抵のことではない。かなり強いことを言わないと付いていかないと思います。

牧田委員長

評価と言うよりも次に繋がる大事な意見が出ているのでこれに関連した何か意見があれば出していただいて、評価に移っていきたいと思いますが。

藤村委員

以前は産業観光部は一緒になっていましたよね。それで農林部と観光商工部に別れた経緯があるのだろうが、それで縦割というか連携が上手くいってないというのはないですか。政策を見れば観光は観光、農林部は農林部、総合産業研究所は研究所でお互いにまた違うことをやっているから、そこらへんの整合性というか、やはり一緒にやるといってもフロアが違えば現実的に出来ないと思います。そこらへんも含めて潤滑に考えていかなければダメではないですか。

太田観光商工
部長

全くそのとおりで所得10%の部分で考えれば当然ながらリンクさせていく部分も当然だと思いますが、今の観光の部分で、現在のボリュームの中でいけばやはり観光と商工をくっ付けて農林を離れたというのは私の観点では正解だったと思っています。ただ業種

の中では当然ながらリンクするものがありますので、グリーンツーリズムや農家民宿は観光にリンクする大変大きい部分がありますので、そこらへんはやっていないという意味ではないですが、現在は分けてやっているというのが実情です。

牧田委員長

総合的に有機的に機能していくということは、もったいない人材が抜けているなど、例えば次にやる癒しの部分の中に温泉療法があります。これだけ温泉があってこれらの人材を上手く使えば、今の玉川温泉の癒しだけではなくて色々な観光との関わりの中でこういうのも活かせるのではないかと思っはいます。そのへんも含めた総合的な繋がりのある施策が作れる場があると良いなという感想は持ちました。

佐藤委員

私も元々秋田市民で、10年前に仙北市の自然環境の素晴らしさに惚れ込んで勝手にこっちに住んで自然体験をやったり観光に関わった仕事をさせていただいているのですが、長く住んでここにいるとこの良さはよくわかるのですが、正直なところ良さは地味なんです。すごく良いのだけれど売り出すにあたってはすごく地味、角館とか乳頭温泉等のわかりやすいところは良いのですが、本当はもっと魅力が有るのだが、そこは農家民宿であったりわかりづらいのがあるのかなと実感しています。でもポテンシャルはものすごく高いということも感じていますので、そのへんをどうやってこれから真剣に売っていくべきなのかなと思うところが一つと、あとは、普段よそから来る人に来たら良いところなだけで来るのが、やはり来るのがアクセスが難しいところがあるということをよく言われます。例えばスキーなんかもそうなのですが、田沢湖スキー場は本当に良いなと言う人、来たら良いのだけど、やはりコスト面とか東京から来るスキー客だったりすると北海道に行ったほうが楽し安いというのがあったりするのですごく残念というか、それと同じことでこの間大人の休日倶楽部がものすごく安い値段で出るとびっくりするぐらい人が来ましたよね。市内に新幹線の駅が2つもあるというすごいところなのでこれを活かさない手はない、新幹線で来たらびっくりするぐらい楽に来れたということはいつも聞く話ですので、これを継続的に普段から、料金的なことが一番でしょうけれども、もっと市や観光協会から強い働きかけを、既にやってはいるのでしょうか、新幹線はものすごい財産ですのでこれをもっと活かさない手はないのではないかと思います。実際に何かそういった取り組みはあるものですか。

太田観光商工
部長

観光連盟の施策はまだ計画中ですが、アクセスの部分でこちらに来たらなるべく安い料金での移動の方法ということは現在計画としてはありますがまだ実になってはいません。それと大人の休日倶楽部は大変な人が来ました。やはり客層を見ますとシニアの皆様が主体でした。あのクラスの人達が持っているのだなという感触を大変実感しまして、ターゲットをどこに向けたらいいのかという参考にはなっています。

田邊副市長

今の話しで魅力があるのだが発信しきれていないというのは私もそのとおりだと思っはいて、とにかく一度来ていただくというインセンティブが必要なかなと思っはいて、そのためには農家民宿は潜在力があると思っはいます。今進めているのは修学旅行で来て集団で来て若い人が泊まるという感じだと思っはうのですが、もう一つのポテンシャルとして最近旅行は団体旅行から個人旅行になっていて、田沢湖の温泉ホテルは大型の旅行対応にしていると思っはうのですが、農家民宿はどちらかというところじんまりして個人対応に出来ると思っはいます。ただ個人対応にしてみますと情報量が少ない、いつ空いているかとかいつ利用可能なかというようなことがわからないので躊躇する部分も、千葉に住んでいてそう思っはったことがあるので、そういったところを上手く発信していければ個人客を呼び止められるのではないかということと、あとはスキーと農家民宿をドッキングしたいですね。それから大仙市長から聞いたのですが、北海道のスキー場で小中学生を無料にすると、たとえ北海道より値段が高くて割安感が出て、小中学生を連れて来る親御さんを連れて来るインセンティブになるとか、そういったことを聞いたことがあってスキー場に人を呼

び寄せるインセンティブになるのではないかと思います。

牧田委員長 それでは評価に移ります。堺委員からお願いします。

堺委員 アクションプラン9も非常に良くやっているが、食事等を含めて市外産のものが多いということに対しての、せっかく同じ場所にいるのだから早く連携してやってよねというのがはっきりあるので、ちょっと厳しくして評価3です。私にしては相当甘い。13に関しては評価5に近い4で良いと思います。名前をこういうふうにして決断したということが私にとっては好印象で、今度名刺を配布しても一発でわかってもらえる状態になったのが非常に大きいことだと思うので、是非この流れを汲んで次はどういうかたちになってくれるのかわからないが、目上の名前までを改称するかたちもあるかもしれないが、そのへんを上手くやっていただければありがたいと思います。

佐々木委員 9は、重点特別区ということで非常に大事なことだと思います。景観もきちんとやれるようにしてほしい、それが観光客に対する礼儀だと、あとはまごころで対応すれば良い訳ですから、あとはいかに仙北市産の農・供給・旅館あるいは農家民宿、タイアップして将来的に物産公社みたいなものを出来れば作ってやれば良いなという感じがして、地場産、地産地消もホテルでもやれば良いなと思います。良くやっているということで評価は4です。13ですが、3ヶ町村にあったものが1つのかたちになったこと、これはなかなか難しいのではないかと実際は思っていました。良くやっているなということで、ただ予算的には1つ上で予算を盛ったことで今後どうするのかという議論はありますが、要するに80億円にするために市も持つということもやってもらって期待を込めて評価4にします。

大和田副委員長 9に関しては、潜在能力を発揮するのはこれからだということではその緒に就いたということで評価3とします。13に関しても、同様に4年間で評価5に持っていくための今とても良い助走段階に入ったということで評価3とします。

牧田委員長 両方とも評価3とします。良い出発は出来ていると思っています。これをもっともっと連携を強めていくということの確約をしながら次に進んでいく展望は開けたのではないかと考えています。ただ展望は開けたのでこれからそのへんでは課題だと思います。

草薨委員 評価はどちらも3です。仙北市民が全体的に理解する必要があると思います。今まで私は、観光関係に関わらせてもらって、特にスキーは50年やってきています。上がった時はどうであって、中間の時はどうであって、今現在はどうであってということを知っているのです。どうやったら効率良く出来るか分かっている。やれば出来るんです。それは十分に分かっています。ただ手あぐらをかいているばかりでは無く、自分でやっていくことで道が開けていくと考えています。

橋本委員 評価は3です。グリーンツーリズムや農家民宿についての良い評価をされた方がいましたが、それらについては、どういう訳なのか資料には記されていない。それから、皆さんから叱られるかもしれませんが、16年の秋頃だったと思います。合併協議会がもめたことがありました。それがまた再燃するのではと感じていることがあります。今年の6月に3地区の商工会が合同で開催されましたが、そこで、また何年か前に戻ってしまったかなと感じたことがありました。どちらも評価3にします。

西村委員 さんざん言わせていただきましたが、両方とも評価4で良いと思っています。まだ課題はたくさんあるので、これから色々な施策を行っていく必要があると思いますが、その一つとして、資料に記されていますが、市内の宿泊施設を活用して大学の合宿などを誘致し

ていく事業は一定の成果があるようですが、これをもっとブラッシュアップして欲しいです。スポーツツーリズムについては、教育委員会に部課所を設けて取り組んでいるようでスキーは残念ながら鹿角で開催されるようですが、市内には色々な宿泊や大きな大会などを誘致出来る宿泊施設があるので、それを活かすべく、スポーツツーリズムに力を入れていくべきだと思います。色々な縁で、子供達のバレーボール大会を自分の冠で、スポーツセンターを会場に開催しています。今年も開催しますが300人弱が集まります。子供達と言っても、一泊すると5000円程度は使われます。これが、全国規模の大会となると子供達が500人、大人が300人、計800人が3泊4日します。かなりの経済効果が期待出来ることを、是非皆さんにも知っておいていただきたいと思います。

藤村委員 9と13については、評価は4で良いと思います。先程から皆さんが発言されているように連係することで所得アップにつながっていくと思います。口先だけでは無くみんなが一緒になって取り組んで欲しいと思います。

佐藤委員 9は評価3.5、13は評価4とさせていただきます。観光協会の統一ということで、西木地区に関しては問題があるようですが、連係が必要なことは合併当初から言われていることで、まずはその方向に向かっているということ、仙北市という名称になったことで埋もれてしまった田沢湖や角館のブランドを活かしていこうということは、良い方向に進んでいるように思います。

田口委員 先に13ですが評価3です。連携というかたちで田沢湖・角館観光連盟ということでそれぞれの名前が残ったことは良かったことだと思います。ブランドなので、仙北市では無く確立されたブランドを大切にしていくという意味では良かったと思います。また、角館と田沢湖の観光の性質は違うので、それぞれが競い合っていくという部分もあって良いのではないかと思います。自分たちの地域の為に一生懸命になるということが大切なことであり、何でもかんでも一緒になれば良いということではないので、連携するところは連携し、競い合うところは競い合いながら、両輪で活動していければ良いのではないかと思います。9については評価2です。特別区の創設ということですが、これに対しての意味があるようには思えません。先程発言がありましたが、個人の観光に変わってきているので目立つような観光施設だけでは無く、例えば農家民宿のようにそこに住んでいる人たちの生活を直接的に感じられるようなことが大切だと思います。違う話かもしれませんが、角館の蔵が段々となくなっていったり、残しておきたい古い民家がなくなっていったりなど、江戸時代あるいは昭和の古い街並みがなくなっている現状がありますので、そういった素材も、田沢湖や角館の武家屋敷以外にも、私たちのごく当たり前の昭和の生活なども残していくことが、将来の観光の資源になっていくのではないかと思います。そういった意味で観光特区のように目立つところだけ特別に扱うということではないと考えています。

牧田委員長 ありがとうございます。全員から全項目についての評価が出ました。それでは事務局からお願いします。

事務局 ありがとうございます。それでは、次の日程とテーマになります。政策3の「医療再生し福祉を充実します」でいかがでしょうか。アクションプランでは15から20の6項目になります。日程については、2週間に1回のペースですと、7月の最終週になりますが如何でしょうか。都合が悪い日がありましたらお知らせください。

(日程について協議)

それでは8月3日の金曜日1時半から同じ場所はいかがでしょうか。

(一同了解)

それではその日程でお願いします。

5. 開会

牧田委員長 それでは第6回政策検証市民委員会を閉会します。ありがとうございました。

終了16:50